

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教職実践力高度化コース/
芝山 明義

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

高度学校教育実践専攻(教職大学院)の専任教員として、そのなかで教職実践力高度化コース(2013年度より)に所属する教員として、まず教職大学院における現職教員を対象とした人材養成の目的を果たすため、専攻の特色をもつカリキュラムの意義を最大限発揮すべく努めたい。その上で、教師を目指す学生にたいする授業実践の展開における取り組みとして、①現場での教育実践に資する情報の提供、それらにより教育課題への関心をもち課題への取り組みを促す話題を提供して、学生の教職に関する理解を深めたい。②①と関連して、学生の知識習得に必要な十分な講義の手順と資料の提示、課題への主体的な取り組みを促す質疑や討論等の方法とその活用を工夫したい。③学生の理解と課題への取り組みを総合的かつ適切に評価する手続きを工夫し、実施したい。

2. 点検・評価

主として、所属している高度学校教育実践専攻(教職大学院)において、専攻・コースの教員の方々と協力しながら、1年次生の学年担当(コラボレーションオフィス・コーディネーター)として、一方で実習科目に接続する関連科目等ではこれまでの成果も継承しつつ、2013年度に改訂されたカリキュラムの趣旨を踏まえて、新たな内容や方法を取り入れる等の工夫を加えた教育指導に積極的に取り組んだ。新規に開設あるいは担当した共通科目・専門科目では、目標に設定した①②に留意し、教育実践に関わる事例等の教材研究と資料提示の工夫を積極的に行い、また旧カリキュラムと継続した専門科目においてもこれまでの成果と課題をふまえて工夫・改善に取り組み、設定された目標を概ね達成した。目標に設定した③についても、専攻の自己点検・FDの趣旨を踏まえて、授業の展開と連動した評価課題の設定等を工夫した。また、学部配当の担当授業においても主たる受講生である学部生・「長期履修生」の現況に対応して、①②③に係る工夫・改善を検討・実践し、設定された目標を概ね達成した。なお、所属専攻・コースではコラボ・コーディネーター及び実習担当教員として、2年次生の授業についても専攻・コースの教員の方々と並びに実習校の教職員の方々と協力しながら、主として各実習科目に関してその特色を生かした内容と方法の工夫・改善を検討・実践し、設定された目標を概ね達成した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①主として所属専攻・コースにおいて、教育・学生生活支援を円滑におこなえるよう、教職員間の連携を図る。
②主として所属専攻・コースの大学院生の教育研究環境整備を、専攻・コースの教員と協力しておこなう。
③専攻・コースにかかわらず、学部生、院生の要望等の相談に随時応じ、学部生、長期履修生と学卒等の院生には、将来教員・社会人として必要とされる日常生活態度等を身につけられるように指導・助言していきたい。

2. 点検・評価

①所属専攻・コースにおける会議等に積極的に出席し、教員間の連携を図った。とくに改訂されたカリキュラムや指導体制に係るコラボレーション・コーディネーター及び所属キャリアグループ世話人として、専攻内委員会等関連する会議等に積極的に参加した。②所属専攻・コースの大学院生に係る教育研究環境整備を、専攻・コースの教員の方々ならびにコラボレーションオフィスのスタッフの方々と協力しておこない、特に教育研究環境整備として適宜、必要な機器等の配備や点検保守への対応をおこなった。専攻においては、とくに1年次生の学年副担当として、1年次の授業科目や院生室整備等に係る庶務に関して、また複写機に係る施設・経理担当として、大学院生の要望等にできる限り迅速に対応した。③所属専攻・コースの院生を中心に学生の生活状況等について、教職員の方々との情報交換等を綿密におこなった。また、専攻・コースにかかわらず、学部生、院生等学生の個別の相談や要望等に対応して、助言・支援等を積極的におこなった。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

①これまでの研究テーマである学校と家庭・地域の連携と人権教育の課題に関する考察ならびに自己概念と教育達成に関する検討、また、教師教育とくに現職教育についての考察をさらに進展させ、まとめるよう努める。
②科学研究費補助金に関して、研究分担者としてのこれまでの研究成果を学会発表、論文等にまとめることを目指す。継続中の課題については、課題に係る調査研究を積極的に進める。また、新規分については、その審査結果により、次年度の科学研究費補助金に積極的に申請し、学外資金の調達に努める。

2. 点検・評価

本学教職大学院と鈴鹿市教育委員会との市大連携に係る共同研究に関して、前年度に引き続いて学校診断質問紙の作成と調査の実施等を担当するとともに、これに関連する研究成果の一部を論文として公表した。さらに、2010年度まで参画した科学研究費補助金に係る共同研究の成果の一部を論文として公表した。また、これまでの研究テーマである学校と家庭・地域の連携と人権教育の課題ならびに教育達成と自己概念に関する研究を発展させるとともに、教職大学院における教育研究との関連で新しい資料を加えて、学校文化・教師文化に関する研究に精力的に取り組んだ。合わせて、2012年度より研究分担者として参画している科学研究費補助金による「子育て困難な保護者への支援ネットワーク構築に向けた実践的研究」(研究代表者:岩永定教授[熊本大学教育学部])の共同研究において調査研究に着手し、調査の実施に係る計画を踏まえて、アンケート調査に係る一連の作業運営を主に担当した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学内の各種委員会委員等の担当において、当該委員等としての職務を積極的に果たす。各種委員会等に関しては、教職大学院コラボレーションオフィス・コーディネーター(予定)、附属図書館運営委員会委員として、本学の運営に貢献する。また、教育部会議、専攻会議ならびにコース会議等に出席・参画し、大学の構成員として本学の運営に貢献する。さらに、所属専攻・コースの運営に係る職務を積極的に果たすことを通しても、本学の運営に貢献したい。

2. 点検・評価

各種委員会委員として、所属教育部選出の附属図書館運営委員会委員として、その職責を積極的に果たした。また、教職大学院の運営においては、コラボレーションオフィス・コーディネーターの1年次生担当(学年副担当)、所属キャリアグループ世話人、経理担当、広報担当とくにその一環としての本学教職大学院同窓会幹事(事務局)として、及びカリキュラム開発委員会への参加等、他のコーディネーター、委員ならびに担当者の方々と協力しながら、その務めを積極的に果たした。とくに、教職大学院同窓会に関しては、所属専攻の修了生等との連絡・調整と広報に係る情報交流、研究実践交流会等の諸事業の準備と実施、会報の編集と発行等、諸業務を積極的に果たした。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属校園とともに学校や教育委員会等からの依頼・要請等に応じるなど、大学と地域・社会との交流・連携を積極的に起こない、地域・社会に貢献していくよう努める。(附属学校・社会連携・国際交流)

2. 点検・評価

2013年度も継続して教育支援講師・アドバイザーに登録し、社会・地域との連携を進めるべく努めた。また、研究テーマである人権教育に関連して、本年度も継続して鳴門市社会人権教育講師の委嘱を受けた。さらに、本学教職大学院と鈴鹿市教育委員会との市大連携に係る共同研究を通して、連携活動に参画するとともに、本学教職大学院と徳島市教育委員会との連携事業である徳島市「学校元気アップ推進事業」徳島市学校支援専門家チームのメンバーに登録している。合わせて、2013度には板野郡町教育委員会連絡協議会からの要請を受け、8月に実施された同連絡協議会の研修会において講演会の講師を務めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

所属専攻に係る活動として、『平成24年度教職大学院自己点検評価書』の執筆を分担した。

Ⅱ-2. に記したとおり, 2012年度より新規採択された, 研究分担者として参画している科学研究費補助金による「子育て困難な保護者への支援ネットワーク構築に向けた実践的研究」(研究代表者: 岩永定教授[熊本大学教育学部])を継続している。

Ⅱ-4. に記したとおり, 本学教職大学院と鈴鹿市教育委員会との市大連携に係る共同研究を通して, ならびに本学教職大学院と徳島市教育委員会との連携事業である「学校元気アップ推進事業」により, 連携活動に参画した。